

泉芳朗 いずみよしろう 詩人。明治三十八年二月十八日鹿兒島縣大島郡伊仙村
生れ、昭和二十四年四月九日歿（一九五一年）。筆名泉與史朗。大正十
二年鹿兒島縣立第一師範學校卒。小學校訓導。十五年白鳥審吉の詩誌
『地上樂園』同人、昭和二年上京、千歳ヶ谷小學校訓導となる。同郷
の先輩昇曙夢、上村清延等と交遊。九年詩誌『詩律』を創刊主宰（十
一年『モエール』、更に十二年『詩生活』と改題し、翌年道巻五十冊を
以て終刊）、鹽野筈三、伊波南吾、田村昌由、關口由記夫、田中清司
等が同人となる。十四年田村、久須耕造、小笠原啓介、淺井千三郎等
と『詩と詩人』を創刊。十六年郷里の伊仙國民學校教頭に就任、二十
二年奄美文藝家協會を興し、會長。二十四年月誌『自由』を創刊、
自由社社長。その後は奄美大島復歸運動に従事、二十八年群島復歸を
實現せられた。

詩集『光は濡れてゐる』（昭和二年刊）、『路上のうた』（昭和二
年刊）、『お天道様は逃げこゆ〜』（昭和九年四月十五日黎明社）、
『泉芳朗詩集』（昭和二十四年十一月二十五日泉芳朗詩集刊行会）。

